

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	19H05659	研究期間	令和元(2019)年度 ～令和5(2023)年度
研究課題名	血圧上昇因子群の脳内作用機構に関する統合的研究	研究代表者 (所属・職) (令和3年3月現在)	野田 昌晴 (東京工業大学・科学技術創成研究院・特任教授)

【令和3(2021)年度 中間評価結果】

評価	評価基準
A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○ A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(研究の概要)</p> <p>本研究は、食塩感受性高血圧の病態生理の中で、中枢神経系が有する役割の解明を目的としており、研究代表者が発見した Na チャネル分子である Na_x の役割を中心に、レプチンによる血圧上昇機構とレニン・アンジオテンシン・アルドステロン系の活性化による血圧上昇機構について、レプチン、アンジオテンシン II 及びアルドステロンの脳内における受容部位の同定とシグナル伝達経路の解明を目指す。</p>	
<p>(意見等)</p> <p>研究室移転に伴う研究環境の整備や、新型コロナウイルス感染症の影響によりマウスの飼育が遅れるなど想定外のこともあり、一部の研究計画が開始できておらず、研究計画全体がやや遅れ気味である。また、レプチンに関連する研究、レニン・アンジオテンシン・アルドステロンに関連する研究、血圧上昇を担う多様なシグナルを統合するメカニズムに関する研究の一部について、実施報告がないものもある。</p> <p>一方、新規 Na 濃度センサーである SLC9A4 の同定に成功し、終板脈管器官 (OVLT) における Na_x と SLC9A4 による Na 感知と水分摂取行動の制御機構あるいは脳弓下器官 (SFO) 内のコレシストキニン (CCK) 作動性ニューロンの同定と CCK による水分摂取抑制機構など、新しい展開が認められ、概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれる。</p>	